



あす東日本丸出漁式

明朝小名濱に入港

錯雑を一掃して明朝化へ

晴天の露塵以上の驚愕を町入港は明二十二日早朝へ移拾圓、國防費へ拾圓を
民に満喫させた東日本丸の豫定で午前十時より海岸敷納した
就去は其後秩序立つた運動、理立地に出漁式を執行、来
と手續に依り、小名濱に還費一同を新船に案内して親
元すること、一決し明二十日早朝午後一時より新
二日午前十時より出漁式の米バラックに於て祝賀小宴
運びとなつた、東日本丸のを張る豫定である

井上氏の消防界

地方空前の盛儀

消防界異例、天杯御下賜

平消防組頭井上茂作翁の消
防業は二十一日午後一時よ
り平市第三小學校講堂で執
行、大日本消防協會長内務
大臣末次信正氏代選、緒方
協會理事、青柳警察部長
以下縣下消防組頭三百八十
余名、勝田副官、淺井一の
宮組頭、全國消防關係者等
二千五百余名列席、關内警
備委員長の弔文、青沼平市
長の弔辭、協會長以下の弔
辭の朗讀あり地方空前の盛
儀だつた

井上家の

獻金

平市五丁目井上家では茂作
翁の逝去に當り軍事後援會

日十二月九
發行所 伊藤隆次
印刷所 伊藤隆次
常務編輯 伊藤隆次
日刊日曜日休刊
一 郵二號 一月三十三號
廣告料 一行五十號

クズリ
資生堂
小名濱町

時局詐欺

軍人留守宅を荒す

目下中支戦線で活躍中の平
市船屋町中野勇の留守宅
に去る十八日午後四時頃年

船首を揃へて一勢に

昨十二時を期し秋刀魚漁へ

警城丸は調査に十六日出港

渡部氏の

後援會に寄附

湯本町領城出身で東京市豊
島區の内科科長を兼ねる
渡部龍藏氏は過般
十六日漁場に先行して調査
指導船警城丸は調査の爲め
の衝に當つてゐる、本年は
一袋の船で一回に二反以上
投網出来ない規約で秋刀魚
への關心は物凄い程である

君は此程應召したが即日歸命として五圓を東日通信部
郷したので國防獻金としてへ寄附した
貳拾圓五丁目青年團運動費

復工問題で

委員會混亂

湯本區會は二十三日に延期
湯本町を昔の湯の町に還元會を開いて工事を進行すべ
じやうといふ復工委員會は去るか否かを協議したが該開
昭和十一年一月起工、既題で矢吹助役と工事中止派
ら預けられた小荷物が平市に豫定の三百五十間を掘鑿の大井川町議が激論混亂に
にあると稱し金五圓を借りし豫算八萬圓を消費したにおもいつて遂に流會となり
受けそのまゝを委を晦ましたもか、はらず未だ目ハナツ二十日開會の區會も二十三
平署では届出によりこの情
かす、成行きを憂慮され十日に延期のやむなきに至つ
むべき時局詐欺漢を嚴懲中
九日町區聯合温泉復興委員

七歩搗きを喰へ!

昨日平署で主食改善協議會

平署管内の米穀商並に精米
業者七十余名は二十日午後
二時平署會議室に參集、大
須賀衛生課長を以て、主食
改善協議會を開いた、國民
の保健と國策に基き無砂七
歩搗き米の販賣を奨励する
ことになり平市、各町村役
場、業者聯合で近く管内各
戸に宣傳ビラを播布する

小島竹次郎氏病む

小島竹次郎氏は古くは有
名な平市古港小島竹次郎
氏は若くして酒家の豪高
斗酒尚ほ辞せざる行路を
つたが、近來動脈硬化症に
犯され重態を傳へられてゐ

護國院殿葬送の際には遠路御會葬被
成下殊に御鄭重なる御香奠を賜は
り御厚志の段難有御禮申上候
實は拜趨御禮可申管の處乍略儀以
書中御挨拶迄斯御座候
敬具
昭和十三年九月二十一日
平消防組
委員長 關内正一
副組頭 子井上貞治 郎

募 集
印刷工數名採用
青年住込二十圓以上を給す
右來談されたし優遇す
小名濱町古港
常警印刷所
電話(呼)三九

急 募
一、營業部員數名
右希望者は來談され度
常警新聞社

